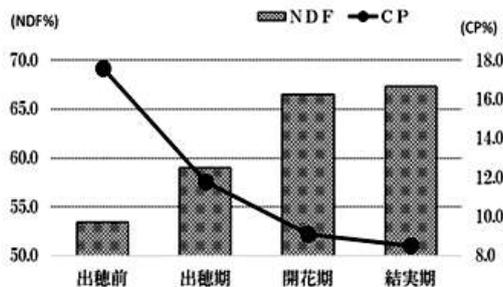


# 牧草の刈り遅れ時の飼料給与対策

宗谷農業改良普及センター

## 生産維持(生産低下を最小限)のために

- ・刈り遅れの牧草は蛋白質(CP)などの生乳生産に必要な栄養が低下し、繊維質(NDF)が増加します。
- ・生産維持のために、乾物摂取量と栄養濃度を保つようにしましょう。



### 1 乾物摂取量維持のため

一般的に、牧草は収穫日が遅くなるほど嗜好性が低下する。  
少しでも自給飼料の採食量を増やすために、出来る範囲で次の事を試してみる。

- ① 給与や掃きよせ回数を増やす    ② ロール等は短く細断する    ③ 糖蜜などを添加(味付け)する

### 2 乾物摂取量と栄養濃度を保つ給与例

日本標準飼料成分表におけるチモシーサイレージの生育ステージ別成分を用いて、乾物摂取量と栄養濃度(CP、NFC)がいずれのステージにおいても同等となる飼料設計例を以下に示した。低下した栄養価に対しては、濃厚飼料の増給が必要となる。

給与量 (kg/日)					栄養濃度 (%)				
生育ステージ	グラスサイレージ	配合(CP18)	圧ペんコーン	大豆粕	DMI	TDN	CP	NFC	粗飼料割合
出穂前	36.3	6.0	6.0	0.2	21.6	79.6	15.9	34.8	50.6
出穂期	34.5	7.4	5.3	0.2	21.6	76.4	15.9	34.8	48.0
開花期	30.3	8.4	5.6	0.3	21.6	74.9	15.9	34.8	42.1
結実期	27.8	11.2	3.2	0.8	21.6	72.3	15.9	34.8	38.6

\* 設定条件：①体重 650kg    ②ピーク乳量 35kg/日※約 8,000kg 牛群を想定  
\* 粗飼料はすべて水分 70%として計算

**結実期では、粗飼料割合が40%以下まで低下する。**

#### 【刈り遅れた牧草を給与する際のポイント】

刈り遅れた牧草を使うと、粗飼料割合が低下するので、消化性のよいルーサンハイやビートパルプペレット等を併給し、粗飼料割合を調整する。

#### 【給与の際の留意点】

分離給与の場合は、1回の濃厚飼料給与量を3kg程度とし、複数回にわけて給与する。  
TMRの場合は、こまめなエサ寄せや水分調整など選び食いさせない工夫をする。

粗飼料分析を行い、栄養成分に合わせた飼料給与を行いましょう。

#### ■お問い合わせ

宗谷農業改良普及センター本所(中頓別町 TEL01634-6-1414) 支所(豊富町:TEL0162-82-2119)